

経済・金融 フラッシュ

タイ 7-9 月期GDP: 前年同期比+3.5% ~7-9 月は堅調、10-12 月は洪水で大幅悪化

経済調査部門 研究員 高山 武士

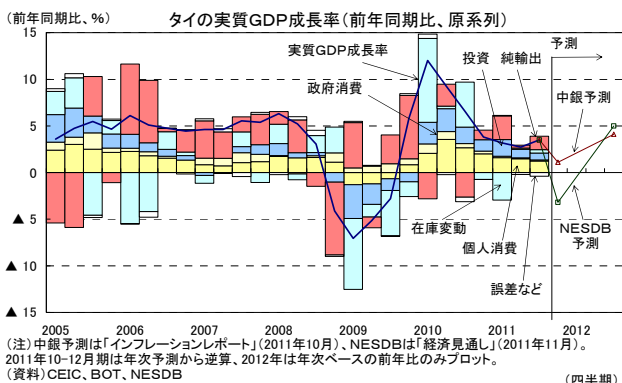
TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 現状:7-9 月期は堅調、洪水の被害も限定的

タイの国家経済社会開発委員会事務局 (NESDB) は 11 月 21 日に 7-9 月期の国内総生産 (GDP) を公表した。実質 GDP 成長率は前年同期比 (原系列) で +3.5% (4-6 月期は同 +2.7%) となり前期から成長は加速した。また、前期比年率 (季節調整値) では 2.1% の増加であった。

需要側を見ると、7-9 月期の輸出が前年同月比 +17.4% (4-6 月期は同 +12.0%) となり、先進国の景気鈍化を受け、先進国向けの輸出は低迷したものの、大きなシェアを占める ASEAN や中国向けの輸出が拡大したため、堅調さを維持した¹。輸入も前年同期比 +19.3% (4-6 月期は同 +15.1%) と伸びているが、純輸出で見ると成長への寄与は 1.4% ポイント (4-6 月期は同 0.3% ポイント) と大幅に増加した。ただし、内需については個人消費が前年同期比 +2.4% (4-6 月期は同 +2.7%)、投資が前年同期比 +3.3% (4-6 月期は同 +4.1%) と減速しており、外需主導で成長したと言える。

供給側を見ると、農林水産業が前年同期比 ▲0.9% (4-6 月期は同 +6.7%) と縮小に転じた。なお、これに伴って農家所得が減少したことは、個人消費の伸び悩みの要因となっている²。一方、製造業については、前年同期比 +3.1% (4-6 月期は同 ▲0.1%) であり、東日本大震災の影響で縮小していた前期から回復に転じている。特に自動車、ハードディスクドライブ、ゴム・プラスチック製品の加工など主要産業が好調だった。



タイ中銀、政府の経済成長見通し

	(実績) 2010年	(中銀予測)		(NESDB予測)	
		2011年	2012年	2011年	2012年
実質GDP	7.8	2.6	4.1	1.5	4.5-5.5
個人消費	4.8	2.2	3.7	2.5	4.4
政府消費	6.4	1.0	4.9	1.2	2.0
個人投資	13.8	9.6	8.8	8.8	11.0
政府投資	▲2.2	▲1.6	12.8	▲7.9	8.0
輸出	14.7	13.6	4.0	10.9	11.3
輸入	21.5	14.9	7.6	13.7	14.7
CPI	3.3	3.8	3.5	3.8	3.5-4.0

(注) 中銀予測は「インフレーションレポート」(2011年10月)、NESDBは「経済見通し」(2011年11月)。
(資料) CEIC, BOT, NESDB

¹ タイの貿易統計によると、ASEAN 向けの輸出シェアは 23.6% であり、7-9 月期は前年同期比 +34.7% (4-6 月期は同 +23.6%) と好調だった。また、中国向け (シェア 13.6%) も 7-9 月期は前年同期比 +62.8% (4-6 月期は同 +22.7%) と急拡大した。一方、先進国への輸出は伸び悩んでおり、例えば、日本向け輸出 (シェア 10.2%) は、7-9 月期は前年同期比 +21.0% (4-6 月期は同 +35.9%) となっている。なお、品目別に見ると、主要輸出品目であるコンピュータなどの電子部品や自動車などが好調だった。

² 7-9 月期の農家所得は前年同期比 +7.4% (4-6 月期は同 +25.7%) で大幅に鈍化した。

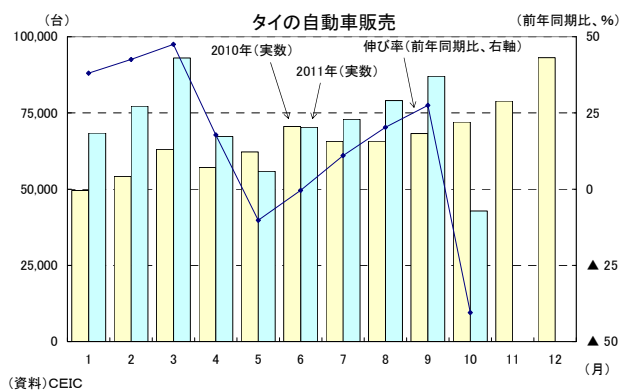
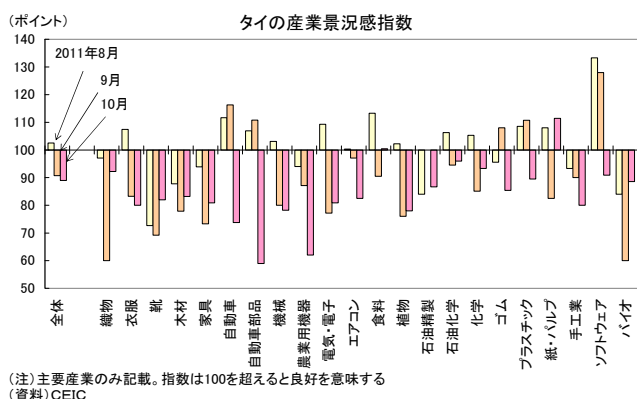
2. 先行き: 早期に復興・復旧に取り組めるかが鍵

さて、タイでは夏からの豪雨で、9月後半には洪水が発生、10月以降も被害は拡大を続け、年内の収束も危ぶまれる状況にあるが、今回発表された7-9月期のGDPへの洪水の影響は限定的なものにとどまっている。農業などではすでに生産の低迷が見られるが³、9月時点では洪水の被害が製造業まで波及していなかったことが大きい⁴。

ただし、10月以降は洪水の影響が製造業へも波及しており、成長が大きく鈍化すると見込まれる⁵。自動車販売統計によると、10月の販売台数は前年同期比で▲40.5%と大幅に落ち込んでいる。また、産業景況感⁶は、自動車産業に限らず幅広い業種にわたって悪化している。加えて、製造業以外においても、農業では収穫不振が続くと想定されるほか、サービス業でも観光客の減少などにより悪影響が及ぶと考えられる⁶。

こうした状況を受け、中央銀行は2011年の成長率見通しを2.6%（2012年は4.1%）に引き下げ、NESDBも2011年の成長率見通しを1.5%（2012年は4.5-5.5%）と下方修正している⁷。

政府は、復旧や治水対策を実施する構えを見せており⁸、10-12月期の成長鈍化は避けられないが、まずは、年明け以降、迅速に復興作業を実施することが重要となるだろう。NESDBが予想するように2012年に成長を大きく回復させるためには、政府主導で復興を効率的に進めることが欠かせない。なお、中長期的には、自然災害への脆弱性に対する懸念を払拭し、質の高い労働力や産業集積地を抱えるという魅力を維持し、海外からの資本吸引力を低下させないよう努力することも必要となってくるだろう。



³ 洪水のほか、政府によるコメの生産調整や大雨でゴム生産が低迷したことも農業成長を低迷させた要因として指摘されている。

⁴ 月次の統計を見ても、例えば生産指数は、9月で前年同月比▲0.5%（7月は同▲0.7%、8月は同+6.8%）、輸出は9月で前年同月比+19.1%（7月は同+38.3%、8月は同+38.1%）といずれも鈍化しているものの、大幅な縮小には至っていない。先進国経済の減速という要因も考えると、9月時点における洪水の影響は限定的と考えられる。なお、その後の10月の輸出は前年同期比+0.3%と大幅に鈍化している。

⁵ NESDBによれば、洪水の影響は特に北部アユタヤとパトムタニ県で大きい。これらの地域は、一次産品の生産地となっているほか、自動車部品、電子部品、織物、靴、食料、飲料、ゴム・プラスチック製品の主要な供給地でもある。閉鎖された工業団地は15のうちの7団地にのぼる。

⁶ NESDBは、すでに140万以上の農家が洪水の被害を受けていることを指摘、合わせて10-12月の観光客数も従来の510万人から440万人まで減少する見通しを示した。

⁷ 中央銀行の見通しでは今年度中の公共投資をやや大きく見積もっている。7-9月期の公共投資の実績や洪水の収束が当初の想定以上に送れており、本格的に復旧作業が行われるのが年明け以降になると見込まれることを勘案すると、実際の成長率は中銀の予測よりも下振れする可能性が高いと考えられる。なお、11月21日には世界銀行が発表した見通しでは、2011年の成長率を2.4%、2012年の成長率を4.0%としている。

⁸ 10月30日にインラック政権が「ニュータイランド計画」として9000億バーツ（対GDP比率8.9%）の経済対策を実施すると発表している。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。